

雪の越後の消息

新潟縣土木課長 川上國三郎

雪の田舎

日比谷に梅が咲き初めたさ、都の新聞が一齊に寫真入りで書き立てるとき我が愛する北國はさうであらう。そんな甜ひ記事を見る都度に一種いやな閃きが北國人の腦裡に浮ぶ。今我等の越後は白皚々の銀世界だ、地方開發、文化消

長の尺度だなき、云ひつ、年々歳々改良された道路も亦未改修の道路も此の下に道あることすら明らぬ迄に降り積つておる、之れが一度吹雪となるものなら又大變、越後吹雪の物凄さ都人士方、一度來て見て御覽じろ。

犬の通る道云ふことがよく通行人より叫ばれておる、

犬の足跡を「シルベ」に辿り行くからだ、其れも道路ならまだしも他人の所有にかゝる田地、田畑、山林中に無斷で假縣道が出来る、夏の中にやれ鋪裝だやれ占用だ、取締りだ、へつたくれだ云ふてをる、自分は此の皮肉を見て滑稽にも感じ苦笑せざるを得ない。

雪の町

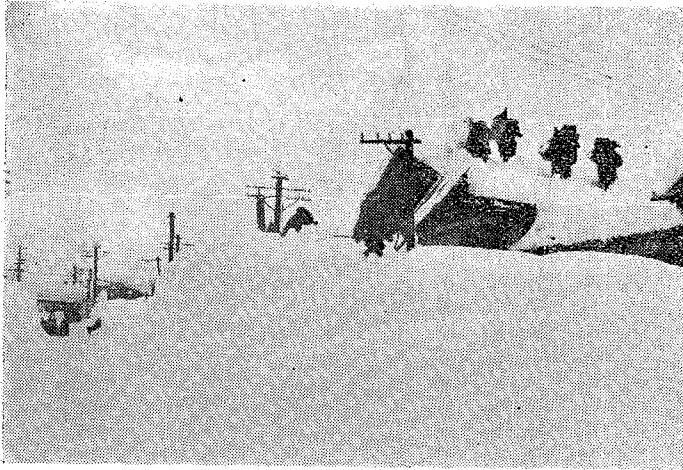
越後の都會さし言へば先づ新潟、長岡、高田の三市を數へるだらう。「海鳴り」の絶へ間なき冬の新潟、

雪の新潟吹雪に暮れてよ

佐渡は寝たかや灯が見えぬ

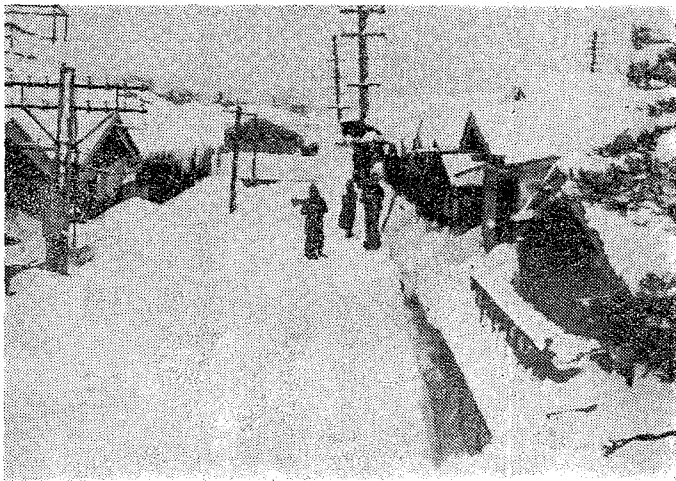
の俗語佐渡オケサは如何に哀調さ失望を意味しておるか。

吹雪となるこ一寸先も明らぬ中を往通ふ新瀉の人々、吹き降り積る街路の除雪人夫、自動車の警笛、其れ等の喧騒



家平内地町東關市岡長
況狀の死必に雪除上屋は建階二没埋

さ、蓋し自然、人間、文化との三つが根氣比べでもしておる様な混雜が其の都度出現される。



目丁一町殿市岡長
況狀るせ惑當に末始の雪積

更に雪の長岡、高田に至りては既に喧騒の喘ぎもなく全

代に雪を見て是れが砂糖だつたらば「叫びし」同一の失望

く雪に征服されて地上十数尺の積

雪の中を舐の様にしたり入つたり

して漸く交通しておる有様だ、最

早かうなる「自動車、人力車の如

き全く問題にならぬ、(昨年の大

雪の際東京の或る新聞社が地方支

局に「幾百圓でもよいから長野、

高田の連絡を自動車でこれ」電

命があつたさか、今に北國人の

笑話の一になつておる) 橋すらも

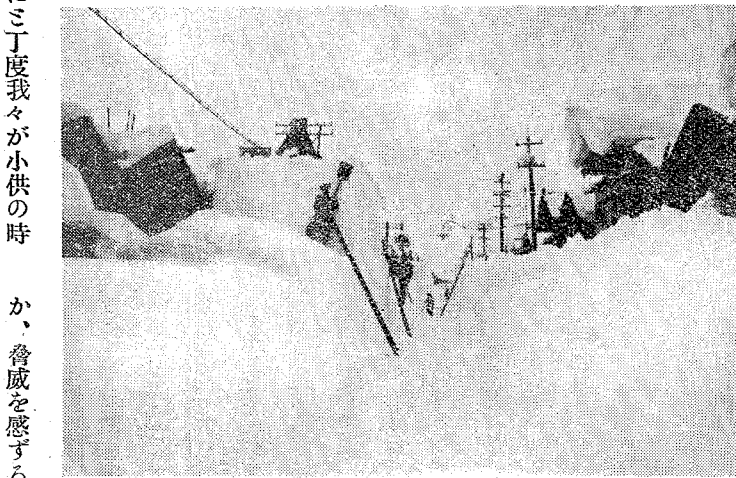
通はぬのだ。夫で止むを得ず肩運

搬をやつておる、かうなつては最

早や道路法も取締りもあつたもの

ではない、此の間雑誌「道路改良」

で見た道路舗装の材料に此の雪が



長岡市明光町四丁目(東京東品商)の銀座通り雪の積り、爲る雪の状況

的嘆嗟の聲を發せざるを得ない。

斯くの如く雪中半歳は交通に火防

に、保健に、風紀に、随分北國の

ものは苦しめられておる、梅咲く

都、吹雪中の舐生活、何たる皮肉、

矛盾、苦笑ぞ。一體北國の事情が

明つて雑誌や新聞を書いたり、法

律を作つたりしてゐる者が幾人あ

るか「云ひたくなる。

融雪期

一夜に五六寸の積雪ならば一瓢

を携ふる雅人の興もなくなり得や

う。物も程度が肝要だ、一夜に桁

違ひの五六尺も積る「感興」ころ

か、脅威を感じる、其れが一回ならず幾度もやつてくるの

で忽ち隨處家屋の倒潰、人畜の死傷多くなる、而も市街部で卸した雪の始末に又も一苦勞、初めは河にも捨てるが、やがては道路を失敬するの外は仕方なき状態で積みに積み重ねたる雪は電柱よりも高く小供等が電信柱の一時占用をさへやつてをる。斯うなるに各所に『此の下に高田あり、小使無用』と落語もぎきの立札も出る。

扱それから一度氣候が緩むに田舎云はず都會部云はず、以上の雪が融け急ぎ大河、小川果ては小溝に至るまで一時に洪水だ、此の寒氣に家屋浸水のミジメさ、橋梁の流失、ひいては交通の杜絶等悲慘の極みは到る處に、現はれる。

或る學生が物好きに雪中登山をして死んだとまで都會の方では大騒ぎをした。越後では義務教育中の可憐の小學生數人が、しかも通學の途中雪崩で死んだ、然し此の世間では夫れ程に思はぬ、茲に至りて惑はざるを得ぬ。要するに雪の國に住むものは雪の爲に此の數ヶ月經濟上は勿論總ての方面に大なる不利不便を感じてをる、自然に恵まれざる

雪の北國にをるものは雜誌「道路改良」の所論を見る度に又新年號の景氣良き記事を見るにつけ、南國の眞似は出來ずとも、せめて雪中道路交通につき有識者の所懐を「道路改良」を通してなり將又他の方法により訊きたいと思ふて止まない、此れは恐らく雪國の者の凡ての聲と思ふ。

我等は道路行政の最前線に立つて活動してをるものであるから、所説採るべしとなれば明日よりも之れを實行し得るものであり又實行したいに常に思ふてをるからそれだけ痛切に感じてをる。新潟縣を只「スキーヤー」のみの越後たらしめざる爲、雪を征服すべき雪中の道路交通に就き大方の御考慮に御研究御援助を得たい次第である。